縁（ゆかり）Ⅲ NO.6	R7.5.20（火）	文責　坂本英明
学校教育目標　【自ら考え、判断し行動する子どもの育成】 重点目標 ①挨拶・返事 ②掃除・委員会係 ③服装・名札 ④時間		

「自ら考え、判断し行動できた姿」

先日、5年生の先生が、「感動したので話を聴いてください。」と私の所へ来ました。話を聴くと、「業間が終わって私が子ども達を外国語教室に移動させるために教室に向かっていると、すでに子ども達が自分たちで声をかけて、外国語教室に移動していて、みんな静かに座っていました。もう、うれしくてうれしくて・・・子ども達は今本当に前向きで頑張ってくれています。」とのことでした。

この姿がまさしく飽田東小学校の教育目標である「自ら考え、判断し行動する子ども」の姿です。

「外国語教室に行く」という一つの行動について、担任の先生に、「早く行きなさい。静かに黙っていきなさい。」と指示されたり、叱られたりしたときは、子ども達の士気は下がります。しかし、自分たちで考えて、進んで黙って行動したときには、褒められたり他人に紹介されたりして、士気が上がり自尊感情も高まります。

このように、たった一つの行動でも順番が大事です。「怒られてから行動する」のか、「進んで行動して褒められる」のか・・・学校全体に広がっていってほしいと思います。

行動するには勇気も必要

驚くほど素晴らしく立派な行動があったのでお知らせします。私は掃除の時間に、正門のごみや落ち葉をほうきで集め、ちりとりでとって処分しています。掃除が終わったので、ほうきとちりとりを職員玄関の掃除用具入れにしまおうとしていると、職員玄関を掃除していた4年生の女子一人が、「校長先生、私がなおしましょうか？」と言って、手際よく片付けてくれました。とても自然で、このお子さんは日頃からこのような行動ができているのだろうな？と感じました。これまで、このような行動は中学生、高校生レベルで、小学4年生ができるとは思っていませんでした。

私は本校に赴任するまでは中学校に勤務していており、よく部活動等で生徒に対し、先生方や保護者が荷物を持っていたり、作業をしたりしているときには、「僕が運びます」とか、「私がします」と言って代わるよう指導してきました。それでもできる子とできない子がいました。さらに、できる子であっても、部活動の時にはできるが、その他の学校生活や社会生活ではできない、ということがほとんどでした。集団や場面が変われば行動が変わることは多いものです。よい行動がいつでもどこでもできるようになることはとても難しいことです。

また、バスで座席に座っているとお年寄りが乗って近づいてきた、路上で歩いていると誰かが物を落とした、などの場面に出くわすことがあります。そのときに、「どうぞ」と席を譲ったり、「落ちましたよ」と声をかけたりするのが望ましいのですが、果たしてできているでしょうか？

自ら気づき考え、こうした方が望ましいと判断できても、行動するには勇気も必要ですね。4年生の女子児童の行動から改めて考えさせられました。ありがとうございました。

↓↓↓飽田東小学校ホームページはこちらから↓↓↓

http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/akitahigashies/index.htm